

～原子力の  
理解を求めて～

# えねるぎーかわらばん

Vol. 92  
福井県原子力平和利用協議会 略称(原平協)  
事務局: 敦賀市野神40-203 TEL: 0770-24-5450  
原平協HP: <https://genheikyo.jimdo.com> 二次元コード▶



## 設立50年 原平協のあゆみ ～原子力・エネルギーの理解活動を続けて～

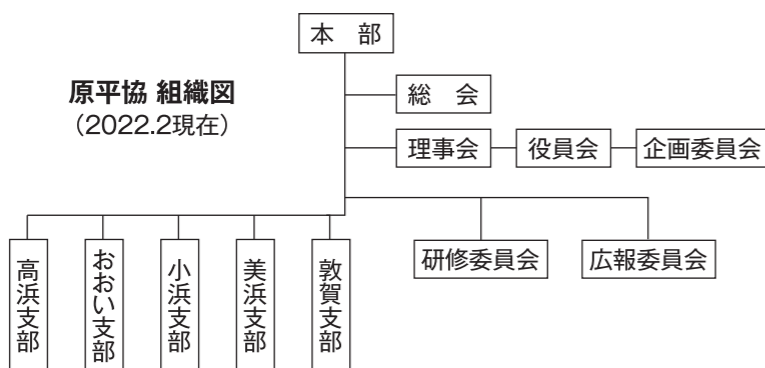
本年1月30日、福井県原子力平和利用協議会(以下原平協)は設立50年を迎えました。1972年小浜の地で産声を上げ、郷土愛、国を愛する心から出発するという基本理念の元、民間有志が集った団体として今日に至っています。本号では、原平協のこれまでのあゆみを紹介したいと思います。

### 原平協はどんな団体ですか？

原子力発電所が多く立地している嶺南地域において、原子力の平和利用を推進するために、原子力の正しい理解の輪を拡げていくことを目的に活動している団体です。

### 嶺南地域って広いけど、どのような形で活動していますか？

敦賀市に本部を置き、高浜、おおい、小浜、美浜そして敦賀に各支部を設けて、共に連携しながら活動をしています。また年度当初に事業計画を立てて本部や各支部が様々な事業を行っています。例えば、高浜支部では夏休みに小中学生を対象としたサマースクールの継続実施や美浜支部の広報誌『みらい』の美浜町全戸配布などがあります。また各支部で独自の勉強会や視察研修、講演会などを活発に事業展開しています。



2020.2.13「おおい・高浜支部合同フォーラム」  
城山荘

### 設立のきっかけは何ですか？

1971年ごろ、関西電力が計画していた大飯1、2号機の新設に対して反対派の運動が激しくなり、ついには町長のリコール騒ぎにまでなっていました。そのような状況の中で、それぞれに活動していた福井県嶺南地域の推進派の有志たちが集まって、『安全確保を前提条件として、組織的に推進運動を展開していこう』と話し合った結果、原平協の設立に至ることになったのです。



1980.5.19「第2回嶺南原子力のつどい」  
敦賀市勤労福祉センター

### これまでの活動をいくつか教えてください。

関西電力大飯1、2号機や日本原電敦賀2号機、動燃(現・日本原子力研究開発機構)もんじゅの建設促進に際して公開ヒアリングへの参加など精力的な運動展開を行ってきました。国(文部科学省や資源エネルギー庁、原子力規制庁など)への陳情活動や、また福井県や立地市町に対して意見や要望活動を行ったり、そして電力事業者に対しても、事故発生時などには、抗議をはじめ徹底した原因究明や再発防止策の報告などを求めています。そして毎年行われている『エネルギーフォーラム』のように大きな会場で講演会やパネルディスカッション等を開催し、市民に向けてのわかりやすい理解活動を行っています。

◎原平協ホームページにバックナンバー(47号～)が掲載されています。是非ご覧ください。次号は、6月11日(土)に「世界のエネルギー事情」について掲載予定です。

### 2つの委員会では、どのような活動をしているのですか？

本部には研修委員会と広報委員会があります。研修委員会は主に会員の知識向上のため、エネルギーや原子力に関わる問題についての勉強会や研修会を開催しています。また広報委員会は『えねるぎーかわらばん』を年4回の掲載発行(福井新聞紙面)やホームページの維持・管理などを通して、対外に向けて原子力やエネルギーそして環境問題等の情報発信を行なっています。



2021.11.13  
「2021年エネルギーフォーラムin敦賀」  
敦賀市民文化センター



2021.9.28 研修委員会  
『処理水、トリチウム水に関する勉強会』  
福井大学敦賀キャンパス



2019.10.10 広報委員会  
『福島第一原子力発電所および  
関連施設視察研修会』JAEA大熊分析・  
研究センター(福島県大熊町)

原平協の活動についてご紹介してきましたが、私たちがこれからも考えていきたいテーマについて最後にお伝えします。

- ① 福島事故の教訓を踏まえ安全安心に根差した原子力発電について。
- ② カーボンニュートラル実現に向けて、エネルギーミックスにおける原子力発電の重要性について。
- ③ エネルギーの安定供給のために必要と考える原子力発電について。
- ④ 使用済燃料の中間貯蔵や高レベル放射性廃棄物の地層処分について。
- ⑤ 原子力発電所の40年を超えた運転やリブレース、新增設の必要性について。
- ⑥ 核燃料サイクルを含めた国際的な見地に基づく原子力発電について。